

庄内大豆通信 第2号

令和元年5月22日

庄内総合支庁農業技術普及課 TEL:0235-64-2103 FAX:0235-64-2104

大豆の播種適期は6月10日までです。 適期播種で増収に繋がしましょう！

排水対策や土づくり肥料の散布を十分に行い、適期に播種を行いましょ。

適期の播種は、初期生育を確保する上で重要です。梅雨に入る前に、1回目の培土作業を行うためには、**適期播種**を行い、**培土作業までに生育量を確保する必要があります。**

1. 土づくり・耕起・整地

- 土壌pHが低い圃場では、耕起前に**苦土石灰**や**炭カル**等の**土壤改良資材**を施用し、**土壌のpHを改善**しましょう（投入目安：120kg/10a程度）。
- 連作圃場では地力が低下しています。**堆肥**（1t/10a程度）や**発酵鶏ふん**（100kg/10a程度）を投入しましょう。
- 耕起時の耕深は、15cmを目安とします。**砕土率**（直径2cm以下の土塊の割合）は**70%以上**が目標です。土塊が大きいと、出芽時の障害となります。また、土壤処理除草剤（特に粒剤）の効果が劣ります。砕土・整地を丁寧に行いましょう。

2. 施肥

- 基肥窒素は、根粒菌が着生するまでの大豆の生育を支えます。右図を参考に施用量を決めましょう。
- 地力低下に対応するため、**緩効性肥料の全量基肥施肥**（LPS60・80）や**培土期の緩効性肥料施肥**（LPコート70）を行うことで収量向上が見込めます。

○基肥の10a当り施用量

窒素 2～3kg
リン酸 6～8kg
カリ 10～12kg

(例)大豆化成684の場合
(NPK:6-18-24)
約2.5袋/10a(50kg)

3. 播種前の準備

(1) 播種量

- 必要な播種量を計算し、種子は十分な量を用意しましょう（下表参照）。

表 播種量の目安（参考百粒重は実測例）

品種（参考百粒重）	播種量(kg/10a)	栽植本数(本/10a)	畦間×株間・1株本数
リュウホウ・エンレイ (中粒) (26g)	約3.5～4.0kg	12,000～14,000	75cm×20～17cm・2本
リュウホウ・里のほほえみ (大粒) (34g)	約4.6～5.3kg		

※目安どおりの播種量になるように、播種前に必ず播種機を調整しましょう。

※播種が適期(6/10)より遅くなる場合は、目標栽植本数を多くしましょう。

(15,000本以上/10a、畦間75cm×株間16cm程度に)

(2) 種子消毒

○初期の害虫（ネキリムシ・タネバエ）と紫斑病は、種子に塗沫処理または粉衣処理をする薬剤で対策が可能です。剤により対象病虫害の範囲が違うので下表で確認しましょう。

薬剤名	対象病虫害
クルーザーFS30	ネキリムシ類、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ
クルーザーMAXX	ネキリムシ類、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、紫斑病、茎疫病、苗立枯病、黒根腐病、ハト、キジバト
キヒゲン	紫斑病、タネバエ、ハト
キヒゲン R-2 フロアブル	紫斑病、苗立枯病、タネバエ、ハト、カラス

4. 播種 播種適期：5月20日～6月10日

○大豆は初期生育期間に湿害にあうとその後の生育にも大きく影響します。播種前後の天候にも留意しましょう。播種後3～4日、好天が続くような時に播種すると、出芽・苗立ちが良好になります。

○播種深度（覆土深）が3cm程度になっているか必ず確認しましょう。浅すぎると干ばつ時に出芽不良になりやすく、深すぎると出芽が不揃いになったり、湿害を受けやすくなったりします。



5. 除草剤散布

【ほ場の条件】

○圃場が乾燥しすぎると効果が劣るので注意しましょう。そのため乳剤では、登録の範囲内で希釈水量を増やし、ゆっくり散布しましょう。

○降雨時または大雨前の使用は、薬害のおそれがあるので使用を避けましょう。

【散布時の注意】

○播種後に使用する土壌処理除草剤は大豆出芽前に散布しましょう。噴霧器に詰まりがないかなどを事前に点検し、規定量が散布されるようにしましょう。

○ドリフトによる他作物への薬害を防止するため、散布時の水圧や風向き等に注意しましょう。

除草剤は希釈倍率・散布量・使用方法・使用時期など、登録情報をよく確認して使用しましょう。

<春季農作業事故防止運動強化期間 4/10～6/10>

STOP！農作業事故 無理せずゆとりある作業を心がけましょう。